

Area Innovation Review Mook 010

特集

「 社会インフラの進化を味方につけろ！ 」

AIR 2013年12月発行 vol.72 - vol.78 特集の再構成版



AREA INNOVATION ALLIANCE

< 目次 >

1. 『社会インフラの進化を味方につけろ!』	3
2. 『IT革命の今!』	8
3. 『IT革命のこれから!』	14
4. 『商売のこれから!』	21
5. 『生活のこれから!』	29
6. まとめ	40

<お断り書き>

本MOOKは、AIAの配信するメールマガジン『Area Innovation Review』の2013年11・12月度配信のvol.72～vol.78の特集記事を再構成したものを一部加筆修正したものです。

その後、本文内にて紹介しておりますサイトや資料などのURLが切れてしまっている可能性があります、ご容赦頂きたく存じます。

1. 『社会インフラの進化を味方につけろ！』

本 AIR Mook 010 は、『社会インフラの進化を味方につけろ！』と称して、これからの”まち”や”まちづくり”に影響を与える世の中の変化を扱ってまいります。

世の中の変化で、今現在、一番その影響が大きい世の中トレンドは、「少子高齢化」であり「人口減少社会」でしょう。

これまでのAIRでも、幾度と無く言及しておりますし、テレビでも世間でも、すでにその認知度は高いところでしょうか。一方で、人口減少はわかっているけど、それに対応する打ち手として、効果的な対応ができているところは、残念ながら、まだまだ少ないところです。。

なのですが、今回の特集では、少子高齢化や人口減少ではなく、それ以外のほかのトレンド、とりわけ「社会インフラ」や「イノベーション」といったテーマについて、そのトレンドを考えていきます。

社会インフラと言いますと、道路、とか、通信網とか、公共寄りな印象もありますが、それだけでなく、インターネットや携帯電話など民間事業者が提供しているサービスも含めて考えていければと思っています。個人やまち会社のレベルでは、左右することができない世の中の流れとでもいまいしょうか、そういったところをイメージしております。

1. 1 キッカケ

そもそものキッカケは、AIR編集会議で、「少子高齢化で人口減少社会って、結局、縮小均衡しかないんですかね？」という素朴な疑問でした。「人口が減っても豊かな社会って、あり得るんですかね？」

で、調べてみますと、経済学では、

(長期) 経済成長

$$= \begin{array}{l} (1) \text{ 資本ストックの増大} \quad \times \\ (2) \text{ 労働力供給の増大} \quad \times \\ (3) \text{ 技術進歩} \end{array}$$

という考え方があるそうです。

ちょっと生産とか供給サイドに寄ってる気もしますし、経済学でもいろんな考え方があるそうなので、この考え方が全てではないと思いますが、確かに、(2)の労働力供給が減っても、(1)や(3)で、より効率的な社会となることで、経済成長が達成される、というのは、あってもよさそうです。また、行政発表の資料でも、この考え方は、(まだ?)結構、使われていますね。

ちなみに、「豊かな社会」と「経済成長」の話は、とりあえず、ここでは置いておきます。経済成長すれば、それなりに、豊かな社会ですよ、といった緩い前提で進めていきます。少なくとも、経済が縮小してるよりは、経済が成長する方が、ほかの要素が同じであれば、そりゃ、豊かと言えるわけです。

「こういう社会資本ストックとか技術革新の話を考えるのって、企業で言う外部環境分析みたいなことですよ、ね？」

A I Aでは、まちや地域をひとつの会社や組織としてみる、ということまちづくりの出発点としています。大企業などでは戦略を検討する際に、顧客はどうだ、業界はどうだ、競合はどうだ、といった外部環境分析を行い、そのベースとしています。

で、同じように、A I Rにて、まち会社向けにこの外部環境をまとめてみるのって、面白いよね、という話になりました。

もちろん、まち会社ごと、まちごとの事情もありますから、外部環境分析と言っても、状況によって、役にたたないんじゃないかね？、という意見も出たりしたところ。とはいえ、それは状況を分析するのが無意味なのではなく、分析したのに自分たちの都合で対応しないというだけだから、やはり分析自体が無意味なわけでもない考えるわけです。

大企業がやってる外部環境分析の中でも、個別の企業や事業だけでなく、他の企業や他の業界にも影響を与えるような、より大きな枠組みを、マクロ環境といい、マクロ環境を調査するフレームワークとして、「PEST分析」というものがあるそうです。

・マクロ環境を調査する「PEST分析」

<http://allabout.co.jp/gm/gc/297659/>

このPEST分析の”まち会社”版や”まちづくり”版を、今回の特集でやっていこう、ってな話になった次第です。PEST分析のフレームでいいますと、S（社会ライフスタイル面）やT（技術面）を意識して、いま、”まち会社”や”まちづくり”の現場で気にしておきたいトレンドを考えていくのって、いいんじゃないかね、と落ち着いたところでございます

1. 2 これまでの社会トレンドの再確認

具体的な分析に関しては次項以降で考えていくとしまして、本項ではまず、まちに影響を与えてきたこれまでの社会インフラやイノベーションのトレンドを確認しておきます。もちろん、団塊の世代を中心とする人口増大というトレンドが最も影響力の大きなものであったのは言うまでもないところですよ。

とはいえ、そういった全体として人口が増えている中でも、ある地域では人が減少していく、ある地域では、それ以上に人が増大していく地域がありました。そういったあたりに、社会トレンドの影響がありますよね。

たとえば、戦後、これまでのところ、まちに影響を与えた、パッと浮かぶトレンドと言いますと、

- ・ 1次産業から重化学工業への産業構造の変化
- ・ 石炭から石油・電気へのエネルギー転換
- ・ 終身雇用サラリーマンの一般化
- ・ 鉄道網の普及と高速化
- ・ モーターゼーションの普及と（高速）道路の伸張
- ・ 鉄道輸送からトラック輸送、個別配送へ
- ・ メディアの全国ネット化と多様化
- ・ インターネットの普及
- ・ 流通の高度化と広域化
- ・ 高等教育の普及、大学全入学時代の到来
- ・ 観光の一般化
- ・ 都市化
- ・ コンビニエンスストア・郊外型ショッピングセンターの小売新業態の普及

などなど、いろいろありますね。

本資料の一部または全部の無断複製・転載を禁じます。

Area Innovation Review Mook 010

2014年4月 発行

発行元

一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス